

製品安全データシート

作成日 2025 年 4 月 30 日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 酢酸イソプロピル (IPAC)

供給者の会社名称 アーク株式会社

住所 大阪府中央区安土町 3-5-13 本町ガーデンシティテラス 3 階

電話番号 06-6563-7710

FAX 番号 06-6563-7720

推奨用途及び使用上の制限 工業用原料、溶剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 JIS Z 7252、7253:2019 使用

物理化学的危険性 引火性液体 区分 2

健康に対する有害性

急性毒性（吸入：蒸気） 区分 4

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 区分 2A

特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 3（麻酔作用、気道刺激性）

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気

強い眼刺激

吸入すると有害

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。

粉じん、蒸気、ガス、ミスト、フューム、スプレーの吸入を避けること。

室外もしくはよく換気された場所でのみ使用すること。

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器は密閉して保管。

容器を接地すること/アースをとること。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。

火花の出ない道具のみ使用すること。

静電放電に対し、予防措置を講ずること。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

冷所保存。

【応急措置】

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。

次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合医師の診察／手当てを受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

火災の場合：消火には、二酸化炭素、粉末消火剤、フォームを使用する。

【保管】

換気の良い冷所で保管すること。

施錠して保管すること。

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質

化学名又は一般名 酢酸イソプロピル (Isopropyl acetate)

別名 イソプロピルアセテート

化学式 $C_5H_{10}O_2$

C A S 番号 108-21-4

官報公示整理番号 化審法：(2)-727、安衛法：公表化学物質

濃度又は濃度範囲 $\geq 99.5\%$

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚を速やかに洗浄すること。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。

次に、コンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。吐かせないこと。口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 二酸化炭素、泡、粉末消火剤、砂

使ってはならない消火剤 棒状注水

特有の危険有害性

火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

引火性の高い液体及び蒸気。

消火方法

速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。

消火作業は、風上から行う。

初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。

大規模火災の際には、耐アルコール性の泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。

消火を行う者の保護 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材

漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。

漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。

二次災害の防止策 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

皮膚に付けたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気厳禁。

作業場所の換気を十分行う。

静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実に行う。

安全取扱い注意事項：

密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。取扱いは換気のよい場所で行なう。

酸化剤と接触させない。

保管

安全な保管条件

保管条件 容器は遮光し、換気のよい涼しい場所に密閉して保管する。

安全な容器包装材料 ガラス

混触危険物質 強酸化剤

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 100ppm

日本産業衛生学会 100ppm

ACGIH TWA 100ppm

ACGIH STEL 150ppm

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具 適切な眼の保護具を着用すること。

保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具 適切な顔面用の保護具を着用すること。

衛生対策 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态 液体

形状、色など 無色

臭い 果実臭

pH データなし

融点・凝固点 -73℃

沸点、初留点及び沸騰範囲 89℃

引火点 2℃

爆発範囲 下限：1.8vol%、上限：7.8vol%

蒸気圧 5.3 kPa (20℃)

密度及び／又は相対密度 0.87 (20/4℃)

相対ガス密度 (空気 = 1) 3.5

溶解度 有機溶媒：アセトン、エタノールに可溶、水 2.9%

n-オクタノール／水分配係数 (log Pow) 1.3

自然発火温度 460℃

10. 安定性及び反応性

反応性 通常の条件では、危険有害な反応は起こらない。

化学的安定性

通常の取扱いにおいては安定である。

流動、攪拌などにより、静電気が発生することがある。

危険有害反応可能性

硝酸塩、強酸化剤、強アルカリ、強酸と反応して火災や爆発を引き起こすことがある。

避けるべき条件 高温、日光

混触危険物質 酸化剤。

危険有害な分解生成物 一酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性

経口 ラット LD50 値：3000mg/kg

経皮 ウサギ LD50>17436mg/kg

吸入 ラット LC50：17132ppm (4h)

皮膚腐食性／刺激性 区分に該当しない

ウサギに本物質 0.01 mL を 24 時間開放適用した試験において、刺激指数は 1 (最大値 10) であり、刺激性はなし又は軽度の刺激性ありとの報告がある。

また、ウサギに本物質 500 mg を 24 時間適用したドレイズ試験において、軽度の刺激性がみられたとの報告がある。

眼に対する重篤な損傷／刺激性 強い眼刺激

ウサギを用いた眼刺激性試験において、刺激指数は 2 (最大値 10) であり中等度の刺激性と判断されている。また、角膜に対して腐食性を示す可能性があるが、症状は 3-10 日以内に回復するとの記載や、ヒトの眼に対する刺激性を持つとの報告がある。

一方で、標準的なドレイズ法による試験において、刺激性は軽度であったとの報告がある。

以上、中等度の刺激性及び腐食性の可能性との記載から区分 2A とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 データなし

生殖細胞変異原性 データなし

発がん性 データなし

生殖毒性 データなし

特定標的臓器毒性（単回ばく露） 眠気又はめまいのおそれ 呼吸器への刺激のおそれ

本物質はヒトに気道刺激性がある。実験動物では、マウスの 1605 ppm 吸入ばく露で中枢神経抑制の報告がある。この所見は麻酔作用とみなした。以上より、区分 3（気道刺激性、麻酔作用）とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露） データなし不足のため分類できない。

誤えん有害性 データなし

1 2．環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性) 区分に該当しない

甲殻類(ブラウンシュリンプ) LC50 =110mg/L/48h

水生環境有害性 長期(慢性) 区分に該当しない

難水溶性でなく(水溶解度=30900ml/L)、急性毒性が低い。

残留性・分解性 データなし

生体蓄積性 BCF : 1.8

土壌中への移動性

n-オクタノール／水分配係数 (log Pow) 1.02

土壌吸着係数(Koc) 15

ヘンリー定数(PaM 3/mol) 28.2

オゾン層への有害性 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3．廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4．輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 IMO の規定に従う。

UN No. : 1220

Class : 3

Packing Group : II

航空規制情報

UN No. : 1220

Class : 3

Packing Group : II

国内規制

陸上規制情報 消防法、道路法の規定に従う。

海上規制情報

航空規制情報

国連番号 : 1220

クラス : 3

容器等級 : II

特別の安全対策

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。

危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。

危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（酢酸プロピル）

引火性のもの

第二種有機溶剤等（酢酸イソプロピル）

作業環境評価基準で定める管理濃度（酢酸イソプロピル）

消防法 第4類 引火性液体 第一石油類 非水溶性

大気汚染防止法 揮発性有機化合物(VOC)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 引火性液体類

海洋汚染防止法 施行令別表第1 有害液体物質 Z類物質

航空法 引火性液体

1 6. その他の情報

この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。